

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成22年10月21日 (2010.10.21)

【公開番号】特開2008-206958(P2008-206958A)
 【公開日】平成20年9月11日 (2008.9.11)
 【年通号数】公開・登録公報2008-036
 【出願番号】特願2007-240930(P2007-240930)
 【国際特許分類】

A 4 7 L 13/16 (2006.01)

D 0 3 D 15/00 (2006.01)

D 0 1 F 2/28 (2006.01)

【F I】

A 4 7 L 13/16 A

D 0 3 D 15/00 D

D 0 1 F 2/28 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月8日 (2010.9.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

公定水分率が 3 ~ 8 %、単系繊維度が 0 . 0 5 ~ 1 . 1 d t e xであるセルロースエステル繊維と公定水分率が 0 ~ 2 . 5 %である合成繊維とを少なくとも一部に含むワイピングクロスであって、該ワイピングクロス表面に存在するセルロースエステル繊維と合成繊維の比率が、30 : 70 ~ 70 : 30であることを特徴とするワイピングクロス。

【請求項 2】

セルロースエステル繊維を構成するセルロースエステルの全置換度が 2 . 5 ~ 3 . 0 であり、該セルロースエステルの少なくとも一部のアシル基炭素数が 3 ~ 18であることを特徴とする請求項 1 記載のワイピングクロス。

【請求項 3】

セルロースエステル繊維を構成するセルロースエステルが、セルロースアセートプロピオネートおよび / またはセルロースアセートブチレートであることを特徴とする請求項 1 または 2 記載のワイピングクロス。

【請求項 4】

セルロースエステル繊維の単系繊維度が 0 . 0 5 ~ 0 . 9 d t e xであることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項記載のワイピングクロス。

【請求項 5】

単系繊維度が 0 . 0 5 ~ 1 . 1 d t e xであり、少なくとも一部分がセルロースであるセルロースエステル繊維またはセルロース繊維と公定水分率が 0 ~ 2 . 5 %である合成繊維とを含むワイピングクロスであって、セルロースエステル繊維またはセルロース繊維と合成繊維の比率が、30 : 70 ~ 70 : 30で、かつ該ワイピングクロス表面の少なくとも一部分がセルロースであることを特徴とするワイピングクロス。

【請求項 6】

少なくとも一部分がセルロースであるセルロースエステル繊維またはセルロース繊維が、セルロースエステル繊維を酸化处理して得られたものである請求項 5 記載のワイピングク

ロス。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記の本発明の課題は、公定水分率が3～8%、単系繊維度が0.05～1.1 d t e xであるセルロースエステル繊維と公定水分率が0～2.5%である合成繊維とを少なくとも一部に含むワイピングクロスであって、該ワイピングクロス表面に存在するセルロースエステル繊維と合成繊維の比率が、30：70～70：30であることを特徴とするワイピングクロスによって解決することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

単系繊維度が0.05～1.1 d t e xであり、少なくとも一部分がセルロースであるセルロースエステル繊維またはセルロース繊維と公定水分率が0～2.5%である合成繊維とを含むワイピングクロスであって、セルロースエステル繊維と合成繊維の比率が、30：70～70：30で、かつ該ワイピングクロス表面の少なくとも一部分がセルロースであることを特徴とするワイピングクロスも好適に採用することができる。